

R6年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語・論理国語（普・理）	単位数	2	担当者	杉村
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

論理国語（筑摩書房） 新訂国語図説（京都書房） 核心漢字 2500+語彙 1000（尚文出版）
改訂版現駄文キーワード読解（Z会） 高校生のための近現代文学エッセンスちくま小説選（筑摩書房）

2. 科目の目標

・言葉の使い方、読解の仕方を学ぶことで、日常のことがらや社会問題の分析の仕方を修得し、ものの見方、感じ方、考え方を深める。また、自分の言葉で考えたことを、様々な方法で表現する方法を学ぶ。

3. 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	①岡真理「虚ろなまなざし」	35	①②
	5月	②野家啓一「物語と歴史のあいだ」		
	6月	③高橋源一郎「ぼくらの民主主義なんだぜ」		③④⑤
	7月	④森本あんり「ポピュリズムとは何か」		
	8月			
9月	⑤仲正昌樹「何のための「自由」か」			
後期	10月	⑥前田英樹「絵画の二十世紀」	35	⑥⑦⑧
	11月	⑦佐伯啓思「過剰性と希少性」		
	12月	⑧中井久夫「戦争と平和についての観察」		
	1月 2月 3月	問題演習		

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	論理的文章や実用的文章・資料を正しく読み解き、理解・活用するために必要な知識・技能を身につける。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	論理的文章の読解を通して、社会の問題や様々なテーマに関するものの見方・考え方を養う。 問題やテーマに関して自分の意見を持ち、それを他者の意見を尊重しながら主張することができるようになる。また、問題の解決の糸口を探すための訓練をする。	定期テスト、言語活動への取り組みやそこでの成果物（作成物や発表等）
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	言語活動への取り組み、出席、提出物、授業態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・客観的に本文の主旨（筆者の意図）を理解する習慣をつけましょう。
- ・文章の構成を意識し、段落ごとの役割を理解するよう努めましょう。
- ・辞書や漢字練習帳を繰り返し開いて、語彙力定着に努めましょう。
- ・普段から様々な文章に親しむと共に、常に身の回りの事象に対して興味関心を持って過ごすよう心がけましょう。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語・論理国語（森・イ）	単位数	2	担当者	神田
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

新編論理国語（東京書籍） 新訂国語図説（京都書房） 常用漢字ダブルクリア（尚文出版）
基礎からの国語表現の実践 2訂版（啓隆社）

2. 科目の目標

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- ・様々な文章の読解を通し、論理的に考え、表現できる能力を養う。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	①評論「最初のペンギン」	①筆者の考えを手がかりに、自分の生き方について考える。	35	①②
	5月	②評論「豊かさとは生物多様性」	②論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。		
	6月	③評論「物語の外から」 ④評論「ロボットが隣人になるとき」 <u>※年間を通し、語彙および進路に関する文章の指導（作文・履歴書等の書き方）を行う。</u>	③「語る」ということの本質について考えを深める。		③④
	7月		④哲学的な思考に沿って書かれた評論から、人間の意志や自由について理解を深める。		
	8月				
9月					
後期	10月	⑤評論「言葉は『ものの名前』ではない」	⑤言語と認識の関係を具体例からとらえ、言葉の働きについて考える。	35	⑤⑥
	11月	⑥評論「科学的『発見』とは」	⑥科学的視点の持ち方とその意義を理解する。		
	12月	⑦評論「もう一つの知性」	⑦科学的思考とは異なる思考の在り方を理解し、現代社会を生きるに必要な態度について考える。	⑦	
	1月				
	2月				
3月					

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	論証や学習のために必要な幅広い知識・技能を身に付ける。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通し論理的・多面的に思考し表現する力を鍛える。	定期テスト、レポート、作成物、発表
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・漢字力、語彙力定着のために、辞書を活用しましょう。
- ・授業での学習活動では、集中して読んだり考えたりして積極的に取り組みましょう。
- ・提出物に関しては、期限などの指示をよく聞き、提出期限を必ず守りましょう。
- ・日常より言葉を通して積極的に他者や社会と関わろうとする意識を持ちましょう。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語・古典探究（普・理）	単位数	3・2	担当者	仁科・島川・神田
---	----	-------	--------------	-----	-----	-----	----------

1. 教科書・副教材

古典探究 古文編・漢文編（筑摩書房）、新訂国語図説（京都書房） 解釈のための 必携 古典文法』（啓隆社）、Key&Point 古文単語 330（いっずな書店） 新明説漢文（尚文出版）、漢文語彙字典（尚文出版）
--

2. 科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・単語力、古典文法や漢文の句法、古典常識等の知識を反復学習し、総合的な読解力を養う。 ・古典についての理解や関心を深めることにより、人生を豊かにする態度を育て、学習に主体的に取り組むことで、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。
--

3. 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月 ①『大鏡』 「花山院の出家」「南の院の競射」	①『大鏡』の読解を通して、歴史物語の叙述方法や人物や内容の描かれ方について理解を深める。また敬語についての知識を復習しながら、敬語から主語の把握をする力を磨く。	3 5	①②
	5月 ②思想（諸子百家）	②文化・政治に影響を与えてきた諸子百家の思想について、長く読み継がれてきたことばの特徴に着目し、その論法に触れながら自らの考えを豊かにする。		
	6月			
	7月 ③『源氏物語』 「若紫の君」 『源氏物語』の虚構	③古文の長文読解に慣れるとともに、作品・時代の背景知識について理解を深める。文章の中で描かれる心情の変化や、垣間見の語られ方について読み取る。		③④
	8月			
9月 ④『更級日記』 「継母との別れ」「源氏の五十四巻」	④作品の成立した背景や他作品との関係を踏まえながら解釈する。本文に表現された心情を読み取り、日記に描かれた内容が作者にとってどのような意味を持っていたのかを読み取る。			
後期	10月 ⑤「詩経大序」「古今和歌集真名序」 「論文」	⑤文学論を複数読み、筆者の主張を読み取るとともに、論の展開の仕方を学ぶ。また共通点や相違点を見つけ、表現の直腸について論述する。	3 5	⑤⑥
	11月			
	12月 ⑥「俊頼髓脳」 「無名抄」「無名草子」	⑥歌論の構成や展開、表現の特色を的確に読み取り、作者の考えを理解する。また自分の知見と結び付けながら、論じられている作品への解釈を深める。		
	1月			
	2月 問題演習	演習問題中心の授業となる。		
3月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、ものの見方、感じ方、考え方を伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	定期テスト、レポート、提出課題
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。また言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとする。	出席、提出物、授業への取り組み

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し音読し、古文や漢文のリズムに慣れましょう。 ・必ず予習（筆写・語句の意味調べ・品詞分解・書き下し文の作成・口語訳等）をして授業に臨みましょう。予習と復習の繰り返しによって語彙量を増やし文法事項や句法を自分のものにしましょう。
--

R6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語・古典研究（理数科・文系）	単位数	2	担当者	杉村
---	----	-------	-----------------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

読み解く古典3』（浜島書店） 改訂版 古典速読トレーニング（数研出版） 新訂国語図説』（京都書房） 解釈のための必携古典文法（啓隆社） 新明説漢文（尚文出版） Key&Point みるみる覚える古文単語 300+30（いっずな書店） 漢文語彙字典（尚文出版）

2. 科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの成果を踏まえ、古語、古典文法や漢文の句法の確認および用例に習熟する。 ・「古典探究」の学びを土台に、受験にも対応できるより深い古典演習を行う。
--

3. 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月 ①古文 1～5	速読小テスト ・文章を時間内に読み通すためのトレーニングをする。 ・「文章を大きくとらえる力」を集中的に鍛える。 ・異なる文章の比べ読みや古漢融合問題を解くことで、大学入学共通テストの対策とする。	35	総合問題 1
	5月 ②漢文 16～19			総合問題 2
	6月 ③古文 6～10			
	7月 ④漢文 20～24			
	8月			
後期	9月	演習テキスト ・基礎的内容から応用的内容、記述等、大学入学共通テストはもとより、個別の学力テストに耐えうる学力の伸長を図る。 その他 ・小テストや演習テキストの進捗や内容に合わせ、文学史や修辭技法といった古典常識にも取り組む。	35	総合問題 3
	10月 ⑤古文 11～15			
	11月 ⑥漢文 25～28			
	12月 総合演習			
	1月			
	2月			
3月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	古典の語彙や、我が国の言語文化に関する事項について理解する。	定期テスト・小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通し論理的・多面的に思考し表現する力を鍛える。	定期テスト・提出課題
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業への取り組み

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・必ず予習をして授業に臨むのはもちろん、演習した内容を必ず復習しましょう。予習と復習の繰り返しによって語彙量を増やし文法事項や句法を自分のものにしましょう。 ・言語文化に対する関心を深め、総合的な国語力の向上に努めましょう。

R6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語・古典講読（普通科・文系）	単位数	2	担当者	仁科
---	----	-------	-----------------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

古典探究 古典編・古典探究 漢文編（いずれも筑摩書房）（※必要に応じ、近代文学作品等も参考資料として活用する。）
 新訂国語図説（京都書房） 『解釈のための必携古典文法』（啓隆社） 新明説漢文（尚文出版）
 Key&Point みるみる覚える古文単語 300+30』（いいずな書店） 漢文語彙字典（尚文出版）

2. 科目の目標

- ・ ほどよくまとまった分量、内容の古典文学作品を読むことで、読解力をつけるとともに、古典文学をより深く理解できるような鑑賞態度も養う。
- ・ 古典を読む楽しさを味わい、伝統的な言語文化に触れることで、情緒を豊かにし、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

3. 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月 ①『伊勢物語』 「月やあらぬ」「狩りの使ひ」	①平安時代のかな文学になじませ、平安貴族の遊興の様子や和歌に込められた思いを読み取る。	3 5	①②
	5月			
	6月 ②『史記』 「怒髪上衝冠」「刎頸之交」	②登場人物の言動をまとめ、司馬遷がどのように当時の武将を描いているか、把握する。		②③
	7月			
	8月 ③『源氏物語』 「車争ひ」（葵）	③光源氏を取り巻く人間関係を理解し、登場人物の内面描写や自然描写を読み味わう。		
後期	9月			
	10月 ④『源氏物語』 「心づくしの秋」（須磨）	④光源氏を取り巻く人間関係を理解し、登場人物の内面描写や自然描写を読み味わう。	3 5	④⑤
	11月 「母子の別離」（薄雲）			
	12月 ⑤『近体詩』	⑤漢詩の表現に接し、表現された世界や詩人の心情を味わう。		
	1月			
	2月 ⑥レポート、課題作品製作			
3月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	古典の語彙や、我が国の言語文化に関する事項について理解する。	定期テスト・小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通し論理的・多面的に思考し表現する力を鍛える。	定期テスト・提出課題
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業への取り組み

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・ 必ず予習（筆写・語句の意味調べ・品詞分解・書き下し文の作成・口語訳等）をして授業に臨みましょう。予習と復習の繰り返しによって語彙量を増やし文法事項や句法を自分のものにしましょう。
- ・ 読解の基本となる語彙力、文法力等を身につけた上で、スピードを持って本文の読解が可能になることを目指しましょう。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	国語・応用国語（森・イ）	単位数	2	担当者	丸山
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

新訂国語図説（京都書房）（※教科書は使用しない。必要に応じ担当者が教材を作成する。）

2. 科目の目標

- ・与えられたテーマを的確に捉え、適切な情報をもとに考察し、論理的に表現する力をつける。
- ・多くの課題作文を通じ、時間や時数の制限に答えられる文章表現を身につける。
- ・相手や場面に応じた会話や議論の進め方を身につける。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	「表現力を培う」 ①文章の基礎	①国語で「表現」することへの関心を養う。 表現の基礎となる「自分の考え、意見」を持つことについて考える。 ②的確に主題を読み取る力をつける。 要約する力、データを的確に読み取る力を養う。 ③④履歴書、志望理由書、課題作文などの書き方を学ぶ。 効果的な自己PRの仕方について考える。 自分の魅力や人柄を伝えるための話し方を探る。	35	実施なし （年間を通し、レポートや作品の提出、発表等に基づき評価する。）
	5月	・言葉・表現への関心 ・考えるということ			
	6月	②文章を読み取る			
	7月	・文章の構成・要約			
	8月	「表現力を培う」 ③小論文・レポート入門			
9月	④自己PRと面接				
後 期	10月	「表現を楽しむ」 ⑤話すこと、聞くこと	⑤声で伝える力とコミュニケーション力を高める。	35	
	11月	・ショートスピーチ ・インタビュー	⑥自分の考えや思いを創作に結実させることで、言葉の魅力や可能性に迫る。		
	12月	⑥さまざまな表現 ・創作文	⑦さまざまな通信文の作法、電話の作法、場面に応じた話し方について理解を深める。		
	1月	「表現力を培う」			
	2月	⑦実用的な表現	※年間を通し、外部のコンクール等に応募することを目指す。		
	3月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、それらを的確に使用する力を養う。	小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通し、論理的・多面的に思考・判断し、表現する力を養う。	レポート、作成物、発表
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・個別作業が中心となるので、能動的に授業に参加しましょう。
- ・作品提出の期日を厳守しましょう。
- ・表現力や語彙力を磨くために、日常的に新聞や書籍に触れるよう心がけましょう。